

目指そう安全・安心、文化と福祉のまち とみやま

中区	小学校区・地区名	富山学区	世帯数	6,248世帯	人口	13,561人
----	----------	------	-----	---------	----	---------

※世帯数及び人口は2021年4月1日現在

■歴史のある文化のまち

富山中学校区は、東西は、東は百間川から西は東山峠まで、北は操山を背にして南に干拓地を中心とする海拔ゼロメートルの平坦地が広がっています。その中心を東西に流れる330余年の歴史のある“倉安川”は東に隣接する“百間川”と併せて2019年9月4日に「倉安川・百間川世界かんがい施設遺産」に登録され、倉安川とその沿岸の数々の史跡、岡山藩主池田家の菩提寺である曹源寺など地域にある史跡や史実、自然などを今に紡いでいます。

■組織の概要

学区を支える「富山学区安全・安心ネットワーク協議会(以後“安・安ネットワーク”と略)は、2006年10月設立。以来、年々結束は強化されています。

安・安ネットワークの中核を担う“小地域ケア会議”において「富山学区のまちづくり計画」を中・長期的に策定し、明確な地域ビジョンが共有されて連携が図られています。

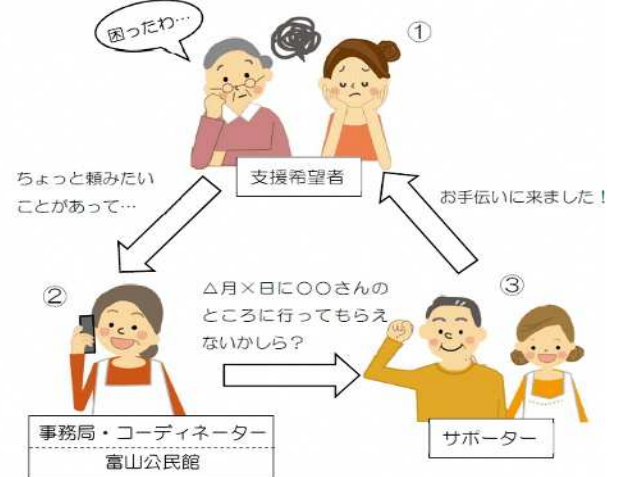
地域コミュニティの充実、住み続けられる・住みやすいまちづくり、高齢者の支援、子ども・子育て支援の充実に取り組み、住民主体の協働の地域づくりに取り組んでいます。

■活動紹介

【とみやま助け合い隊】

小地域ケア会議で2025年問題を議論する中で、高齢者の問題だけではなく「まちづくり」という観点から、富山学区全世帯にアンケート調査を実施しました。その結果、住民が日常生活の困りごとを解決する支援体制が必要だという声が多く、日常生活の困りごとを地域で解決する「とみやま助け合い隊」を2019年1月に立ち上げました。

<活動の流れ図>



- 支援希望者がコーディネーターに依頼。
- コーディネーターは依頼内容を聞き取り、サポーターに連絡。
- 依頼を受けたサポーターは支援希望者のもとへお手伝いに行く。

<活動の内容>

- ・ゴミ出し
- ・病院等への付き添い
- ・草とり、家事、買い物
- ・パソコンの設定
- ・服のお直し など



【地域みんなで取り組む とみやま SDGs 作戦】

国連が提唱する“SDGs(持続可能な開発目標)”について、安・安ネットワークは2020年の総会において「SDGsへの取り組み」を活動計画に採択し、地域を挙げて「とみやま SDGs作戦」に取り組んでいます。2021年4月にSDGsの解説と、住民が取るべき行動をイラストとともに紹介する「富山学区SDGsニュース第1号」を発行して、全世帯に配布しました。紙面では具体的な行動として、食品ロス削減、生ごみのたい肥利用の推進、ごみの分別の徹底化によるCO2削減、温暖化防止、プ

プラスチックごみの瀬戸内海への流入防止も呼び掛けています。「富山学区第2次まちづくり計画」のなかでも「とみやまSDGs作戦」が掲げられ、スウェーデン発祥のごみ拾いをしながらジョギングを楽しむ“プロキング”という市民活動を参考にして、散歩(ウォーキング)しながらごみ拾いをする

“ピックアップウォーク富山”が2021年10月からスタートしました。

このように、まちづくり計画のなかでSDGsの達成が位置づけられ、身近な暮らしの中で個人として地域としてできることを考え積極的に取り組んでいます。



全員にごみ回収用のトートバックと火箸・手袋が配布



【倉安川・百間川の清掃活動】

学区の中心を東西に流れる歴史のある倉安川と学区東に隣接する百間川の史跡や史実、豊かな自然など地域の「宝」を次世代に伝えながら、環境問題への関心が高まり、地球規模の問題を身近な問題としてとらえるため、富山公民館の主催講座から発足した“富山の自然を楽しむ会”を中心に年3回、(安・安ネットワークの取り組みの一つとして地域の各種団体に呼びかけた)清掃活動を行い、ごみを分別し、内容の経年変化を記録しています。

従来は、富山公民館・小・中学校も含む毎回50人前後の参加でしたが、SDGsの目標No. 13「気候変動に具体的な対策を」に目標No. 14「海の豊かさを守ろう」を加えて、目標として掲げたところ、2021年3月の百間川河



川敷清掃では以前より参加者が大幅に増加し100名を超える参加者があり、合計144.5kgものごみを回収することができました。



【とみやま未来塾】

2017年度の全世帯へのアンケート調査では、「①地域活動の後継者の育成が急務、②地域の活動の横の連携が脆弱、③地域の未来ビジョンが共有化されていない」という課題も明らかになりました。そこで、「③未来ビジョンが共有化されていない」という点に着目し富山の未来ビジョンを描くためのいわゆる「学びの場」として“とみやま未来塾”が発足しました。①後継者の育成、②地域活動の横の連携に繋がっていくことを目指して、富山公民館と共催して開催しました。山陽学園大学の白井信雄教授の監修のもと「気候変動と地元学」による「気候温暖化」のテーマで、2020年度から2021年度にかけて全7回のプログラムで実施しました。参加者は地域の次世代を担う男女約40名で、その3割が現役世代を含む30代～50代となりました。「気候変動に強い危機感を持ち、地域の未来を話し合うことができた」と熱い思いが伝わる感想が毎回講座ごとに多数寄せられました。講座をとおして地域のビジョンを語り合い、一人一人がどのようなライフスタイルを目指していくかを発表しました。

【富山自主防災会】

「富山学区第2次まちづくり計画」で防災は重点取り組みとして掲げられています。西日本豪雨を機に発足した“富山自主防災会”では、①逃げ遅れによる犠牲者をださない。②災害の危険度を早めに把握し、住民に周知する。③自力で行動できない要配慮者を隣近所で支援する。④速やかに避難所を開設し避難者を混乱なく受け入れる。以上の4つの重点項目を考慮しながら活動をし、住み続けられる、住みやすいまちづくりを目指しています。

■今後の活動の展望(課題)

富山学区では第1次・2次のまちづくり計画のビジョンのもと、SDGsへの貢献が位置づけられ、安全・安心なまち、文化と福祉のまち、いつまでも住み続けたいまちを目指して安・安ネットワークが中心となって今後も活動を継続していきます。今後は未来ビジョンを共有化するために、とみやま未来塾・「まちづくり講座」を2022年に開催する予定で、子育て支援の充実にも取り組んでいきたいと思ひます。

暮らしの中で個人としても地域としても、持続可能で包容的なまちづくりを実現するため、積極的に取り組んでいきたいと思ひます。